



ソーシャルワークとは
みんなが幸せに、楽しく生きる
ことができるように社会に向き合い、
困難な状況にある人に
寄り添う仕事です。

誰もがその人らしく生きること、すべての人の暮らしの場が
より豊かになることを願い、その実現に一生懸命になる。
それがソーシャルワーカーと呼ばれている人たちです。

だれかのしあわせをホンキでかんがえているひとたち

まじびと

発行

(公社)新潟県社会福祉士会

新潟県新潟市中央区上所2-2-2 ユニゾンプラザ3F
TEL/ 025-281-5502 FAX/ 025-281-5504
Mail/ njacsw@poplar.ocn.ne.jp

新潟県医療ソーシャルワーカー協会

新潟市秋葉区古田610番地 新津医療センター病院内
TEL/ 0250-24-8745 FAX/ 0250-25-1323

新潟県精神保健福祉士協会

新潟県南魚沼市坂戸16-1 グループホームひだまり内
TEL/ 025-788-1043 FAX/ 025-788-1044

編集
デザイン

NPO法人 新潟ねっと

〒950-2041 新潟市西区坂井東3-3-29
Mail/ niigata.net@gmail.com

Publication date : 2023.6.10

新潟県社会福祉士会
新潟県医療ソーシャルワーカー協会
新潟県精神保健福祉士協会

誰かのために**生**

誰かのために生きるという覚悟。
ソーシャルワーカーという地下活動にも似た
ハードワークを正義と論理を携えて
遂行し続ける。
求めがあれば早朝でも深夜にでもハンドルを
握り活動領域へと飛び出していく。
そこにある困難な状況にある人の
手を握るために。
彼らの喜びはその**衝動**の消化。
誰かが彼らと出会うことによって、
その生きるを肯定する瞬間に立ち会うこと。
誰かのために生きるということ。
それがソーシャルワーカーの**矜持**だ。

生きるということ

道端で倒れている人がいたら
手を差し伸べる。
それは義務ではなく、偽善でもなく、
人間としての**衝動**だ。
そんな**衝動**がソーシャルワーカーという
人たちの**原動力**になっている。
彼らの業績は決して目立つことはなく
本人たちも注目を浴びようとはしていない。
むしろ、そんな風に世間から凝視される
ことを嫌う。
仕事成功してもガッツポーズさえ見せずに、
次の責務へと向かう。
新たな**衝動**を消化するために。

新潟県社会福祉士会 沿革

- 1992年 新潟県社会福祉士会 発足
- 1999年 事務局を「ユニゾンプラザ」内に移転
- 2000年 成年後見センター「ばあとなあ新潟」設立
- 2004年 第12回日本社会福祉士会全国大会(新潟大会)を湯沢町で開催
- 2005年 外部評価機関「あいエイド新潟」設立
- 2006年 任意団体から「社団法人」に組織変更
- 2012年 新潟県地域生活定着支援センター開所
- 2013年 「公益社団法人新潟県社会福祉士会」に組織変更
- 2013年 ソーシャルワーカーデー(SWD)集合型イベントを初開催
- 2023年 現在会員数:1,262名

新潟県医療ソーシャルワーカー協会 沿革

- 1954年 新潟県社会福祉協議会
- 1955年 新潟県社会福祉協議会
- 1956年 『新潟県医療社会事業協会』を結成(当時会員数:5名)
- 1958年 「医療社会事業員」の「医療社会事業の指針」
- 1965年 医療社会事業員の増員
- 1988年 日本医療社会事業全国
- 2001年 『新潟県医療ソーシャルワーカー協会』に名称変更(当時会員数:259名)
- 2016年 設立60周年記念として
- 2023年 現在会員数:287名

新潟県精神保健福祉士協会 沿革

- 医療保護部会で医療社会事業の推進について協議開始
- 主催で第1回医療社会事業講習会を開催
- 協会』を結成(当時会員数:5名)
- 設立について県と懇談
- を発行、県医師会を通じ医療機関へ配布
- について県知事等に請願書を提出、採択
- 大会を初めて新潟県で開催
- ワーカー協会』に名称変更(当時会員数:259名)
- 日本医療社会事業全国大会を開催

新潟県精神保健福祉士協会 沿革

- 1970年 『新潟県精神医学ソーシャルワーク研究会』設立
- 1975年 『日本精神医学ソーシャルワーカー協会新潟県支部』結成(当時会員数:33名)
- 第11回日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会全国大会 新潟大会開催
- 精神保健福祉士法が制定され、精神保健福祉士が国家資格となる
- 2005年 『新潟県精神保健福祉士(PSW)協会』と『日本精神保健福祉士協会新潟県支部』に組織改編。
- 2020年 日本精神保健福祉士協会定時総会において英語による表記及び略称を「JAMHSW」に変更
- 2023年 現在会員数:193名

権利を大切に、一人ひとりの当たり前を考えるまじびと

Profile

山本 実紀(やまもと みき)

保育士(第15519号)

所属:新潟市障がい者基幹相談支援センター西
自分を動物に例えると?:リス



所属されている基幹相談支援センターのお仕事を教えてください。

障がいをお持ちの方やご家族のご相談をお聞きして、課題と一緒に考えることが仕事の中心です。それと、地域で障がいのある方へ支援を行っている人や事業所からの相談を受けたり、情報提供をしたりしています。

保育士の資格をお持ちですが、なぜ保育から福祉の世界へ?

保育の学校へ行って、資格を取得しました。そのカリキュラムの中で障がい者支援施設へ実習に行く機会があって、「この方たちのお役に立ちたい。」とビビッときました。それから障がい者施設で10年ほど勤務をして、今の相談業務に至るという感じです。なので、保育の現場には出たことはありません。

どんなところにやりがいを感じますか?

やっぱり、ご利用者のニーズが達成できたときに喜びを感じます。ご本人が生き生きとされている姿を取り戻すためのお手伝いできたときは、素朴に「良かったな。」と思います。課題ばかりに目を向けるのではなく、ご本人の強みや希望に着目しながら、アセスメントをする。ストレングスに着目するという視点を大切にしています。

仕事をする上で大切にしていることはなんですか?

ご本人が自己決定をして、ご本人の意思で生活を送ることができるようなサポートに努めることです。障がいや病気によってはご自身の望みを伝えることが難しい方もいます。そういった方に寄り添って、考えや意志を整理できるようにすることが使命だと思っています。



これからチャレンジしたいことはありますか?

あんまり自信満々なタイプではないので大きなことは考えていないんですけど、日々の小さな積み重ねが大切だなって思っていて…。自分自身の学びを深めて、知識とか技術を入れておくためのトランクを大きくしたいって考えています。それと来年は社会福祉士の国家試験を受験します!!

まじびとに会ってみて。



久保田 勇介
新潟市地域包括支援センターふなえ勤務
社会福祉士
(第216504号)
精神保健福祉士
(第91023号)

基幹相談支援センターでのソーシャルワーカーの役割や、山本さんの熱い想いをお聞きすることができて、実りのある時間でした!

一人一人の想いに寄り添い、「本人が自己決定」できるよう関わることは、ソーシャルワーカーとして必要不可欠な視点です。山本さんが関わっている方達は、沢山の元気とやる気をもたらしているんだなーと感じました。

また、学びと進化を求め続ける姿勢は尊敬の極みです。専門職として尊敬できる方に会えたことに感謝です。国家試験合格を祈念しています!

インタビューに答えて頂き、ありがとうございました!

流れる“とき”を思いながら、目の前の人に寄り添うまじびと

Profile

板垣 龍介(いたがき りゅうすけ)

精神保健福祉士(第58786号)

社会福祉士(第111281号)、公認心理師(第40735号)

所属:ささえ愛よろずクリニック

あさいいの
おすすめのパワースポット: 巨飯野神社(阿賀野市)



精神科クリニックの精神保健福祉士はどんなお仕事ですか?

対象者は患者さんやご家族ですが、広く言うと患者さんの生活に関わるすべてがフィールドと言えます。また、ご本人と先生との仲介役も担います。診察の中ではうまく伝わらないこともあります。そこに私たちの出番があります。それと、金銭面や生活面などのご相談をお受けしています。

どんなところにやりがいを感じますか?

生活面、特に金銭的な相談をお受けすることが多いです。特に障害年金に関わる相談ですね。「障がい」ということに対する抵抗感、それを乗り越えても今度は難しい手続きが待っている。書類の書き方や生活に関わる部分を支援する中で、「心からの安心と笑顔」を目にしたときにやりがいを感じます。

気分転換、リフレッシュ方法は??

神社仏閣巡りが趣味なんです。「歴史」に触れた瞬間に、ものすごく興奮するんですね(笑)。命に関わる仕事をさせてもらっていますが、それについて考えると「その人だけの大切なもの」というだけでなく、終わりのない歴史を感じるんです。

この冊子を読んでくれている方々へメッセージをお願いします。

「障がい=特定の個人に降り掛かった不幸」では

ないんだってことですね。今までの生き方を阻害してくる「もの」が障がいなのかなって思うんです。疾患のために孤立してしまっている人たちが、私たち支援者に気づき、「一人じゃない、安心できる。」と思ってもらったとき、障がい自体は取り除かれたわけではないけど、形は変えられたんだらうなって感じます。それぞれの回復の過程、環境整備などは社会、地域全体で考えなければいけないと思います。

これからチャレンジしたいことはありますか?

仕事のスタイルを変えていきたいなと思っています。ピッチャーに例えると、真っすぐしか投げられないタイプなんです。本当は患者様に合わせて、変化球を投げられる器用さを併せ持っていればいいんですが。不器用なもので…。せめて緩急をつけられるようになりたいんです。



まじびとに会ってみて。



畑 和輝
南浜病院勤務
精神保健福祉士
(第51898号)

板垣さんとお話をさせていただいて、とても誠実で全てを包み込んでくれる温かさをお持ちの方だなと感じました。「僕は器用じゃないので自分の思いをストレートにしか伝えられないんです。」と、はにかみながら語ってくださったのがとても印象的でした。人の歴史や物語をとても重要視されており、患者さんの生活背景や現在に至る歴史に思いを馳せるとともに、過去や現在だけでなく、これから紡いでいく患者さんの未来を何よりも大事にされていらっしゃいました。命、人の歴史の尊さを改めて考えることができたとても貴重な時間でした。ありがとうございました。

冷静と情熱の間を見つめ続けるまじびと

江端 三知子(えばた みちこ)

Profile

中学校教諭／社会福祉士(第226973号)、
精神保健福祉士(第96735号)
所属：新潟市教育委員会
趣味：ジョギング(フルマラソンの大会にも参加)



スクールソーシャルワーカー(以下SSWr)はどんなお仕事ですか？

SSWrは子どもの抱える問題を「治す」ではなく、「なぜこのような問題が起きているのか。」「子ども本人と、子どもを取り巻く環境(家庭、学校等)との間にどのような問題が生じているのか。」という視点で理解し、子ども支援のためのネットワーク形成、社会資源とのつながりづくりを行います。不登校や発達障がい、子どもの貧困、最近ではヤングケアラーやLGBTの相談もあります。

どうして教員からスクールソーシャルワーカーになったのですか？

子どもと毎日会い、たくさん話しているけれど、「普段どんな生活をしているのか。」「どんな家庭なのか。」など、分かっているようで分からないこともいっぱいありました。先生方は一生懸命向き合っているのに、子どもの苦しさは変わらないこともあって…。そんなモヤモヤの突破口になると期待して挑戦しました。

どんなところにやりがいを感じますか？

矛盾してるかもしれませんが、支援しても解決しないことの方が多いです。例えば、相談しても子どもの障がいが治るわけではないです。それでも、子どもにとって「事情をわかってもらっている。」「苦しい時に相談できる。」「一緒に解決方法を考えてくれる。」、そんな存在に

なれていると思えた時にやりがいを感じます。

支援する上で心がけていることはありますか？

子どもの周りの大人たちを支える、間接的な支援も大事にしています。子どもや保護者だけではなく、先生方を支える仕事の必要性を感じました。支援として教育と福祉が連携する際に、お互いの事情や立場、専門性などわからないことも多いので、両者の橋渡し・通訳としての役割を意識しています。

地域のみなさんへメッセージをお願いします

学校の先生だけではなく、他にも相談できる機会がありますので、心配しないで子どもを学校に送り出して欲しいです。また、現在は学校以外の場での学びも含め、子どもひとり一人の状況に応じた学びを保障する支援が求められており、地域も家族の子育てを支えています。その担い手のひとりがSSWrです。



まじびとに会ってみて。

優しさや情熱はもちろんのこと、冷静さや客観性も兼ね備えた素敵な方でした。困りごと全てを解決できるわけではなく、自分一人で出来ることには限界があると仰っていました。だからこそ、「チーム」で支援することを大切にされているのだと思います。また、スクールソーシャルワーカーは、教育と福祉の橋渡し役を担い、それは、医療と福祉を繋ぐ、私の医療ソーシャルワーカーという仕事にも通じると共感することができました。教育と福祉と医療の連携で、これからも子どもたちの幸せを支え続けたいと思います。



佐藤 祐美

脳神経センター
阿賀野病院勤務
社会福祉士
(第90384号)

人に向き合い、心との対話を試みるまじびと

大屋 守(おおや まもる)

Profile

社会福祉士(第202519号)
所属：新潟市社会福祉協議会
好きなバンド：ビートルズ



どうして福祉分野の仕事を選んだのですか？

学生の頃、友人の家族が老人ホームへ入所したことがありました。そこへ行ったときに、介護現場の支援について自分だったらこうしたい、もっと良くしたいという気持ちになったことが原動力になっています。それと同時に自分の住んでいる地域福祉に貢献したいって思ったことがきっかけです。

今はどんなお仕事をされていますか？

今は、新潟市社会福祉協議会本部の介護事業部で働いています。主に、事業所の申請や届出などの業務に携わっています。昨年までは新潟市東区にあるデイサービスセンターで管理者として働いていました。

どんなところにやりがいを感じますか？

ご利用者の個別支援をしているときや、寄り添って伴走支援をしているときにやりがいを感じます。事業所の管理者をしていたときは、個別の支援はもちろんです。働いている職員一人ひとりに向き合い、支援の質の向上に貢献しているときもやりがいを感じていました。職員が働きやすく、この仕事をやっていて楽しいと言ってもらえるような職場づくりを目指していました。

地域にとって、どんな存在でありたいと考えていますか？

これまで色々な地域のデイサービスで働いてきましたが、それぞれの特徴やサービスの内容を住民の方々へ伝えることを大切にしてきました。自治会長さんへ挨拶に行ったり、回覧板に広報を入れてもらったりもしました。地域の方々から自分たちがやっている福祉のカタチを知ってもらおうと、顔の見える関係づくりが大切だと思います。



これからソーシャルワーカーを目指す人たちへメッセージはありますか？

この冊子「まじびと」の表紙に書いてあることをメッセージとして伝えたいです。ソーシャルワーカーは常に寄り添う人、伴走する人であって欲しいです。何か課題があったとしても、ご利用者と一緒にそれに向き合い、継続的にコミュニケーションを取り続けることで解決策は見えてくると信じています。そんな熱いソーシャルワーカーを目指して欲しいと思います。

まじびとに会ってみて。

一番印象に残ったのは「現役のソーシャルワーカーがキラキラ楽しく仕事すること、それを学生や地域の方々へ伝えることが大事!」ということです。何年も働いていると、仕事に慣れてしまって、時々『無…』の表情になりがちの私(笑)ですが、大屋さんの話を聞いて、「そうだよなあ、現役の私たちがキラキラ楽しく働くことって大事だよなあ。」と改めて思いました。また、今の仕事のことだけでなく、福祉業界の未来、人材育成のことなど幅広い考えをお持ちで、正直、インタビューの時間が足りないくらいでした。



瀧沢 枝里子

燕市地域包括支援センター
おおまがり勤務
社会福祉士
(第89292号)
精神保健福祉士
(第32125号)



Aさん(50代/男性)
事故による右麻痺

事故で片麻痺の障がいを負ってしまい、職を失ったAさん。生活保護を受けながら見守り付きのアパートで生活中に、ルール違反で退去と言われてしまいホテルへ。そこで無銭宿泊して逮捕されました。その後、不起訴となり福祉支援を希望されたため、新潟県地域生活定着支援センターが釈放後の福祉の調整を行うことになりました。

アパートを退去するときにはどんな気持ちでしたか？

ルール違反(居室での喫煙)をしていたのは自分だけではなかったのに、注意されて納得できなかった。他の人にも同じ対応をして欲しかった。もうどうでもいいと思ってホテルへ行った。本当は死ぬつもりだった。でも死ねなかった。生きるのも、死ぬのも辛いと思った。

新潟県地域生活定着支援センターの支援を受けていかがでしたか？

はじめはよく分からなかったけど、どうでもいいやと思って支援を希望した。「何とかするから何でも言ってくださいね。」と言われてたけど、今まで人に相談したことがなかったから、何を言えばいいか分からなかった。アパートも探してくれて、疎遠だった家族にも連絡してくれて、引越しも手伝ってくれた。お金がないときは一緒に役所にいってくれたり、困ったときはすぐに相談すればいいんだと思った。

福祉支援を受けて感じていることはありますか？

リハビリやケアマネジャー、地域生活定着支援センター、役所の人がいいろいろやってくれる。事故の前は自分で何でもできていたし、何でもやっていて、それが当たり前だった。人の手を借りるのは今でも抵抗があるし、本当は前みたいに自分の事は全部自分でしたい。でも、できないことを手伝っても

らったらできる事が増えてきて、生きることも悪くないと少し思えてきた。

これからの目標はありますか？

障がい者という事にはまだ抵抗がある。障がい者が治ればいいと思う。事故の前みたいに普通に働きたい。自分で店を持つのが夢だった。障がい者の作業所を紹介されたが、自分が行くところではないと思っている。でも…少しずつ前進できるなら…一度見に行ってもいいかな…。

担当をさせて頂きました



平栗 華代
新潟県地域生活定着支援センター勤務
社会福祉士(第156188号)
精神保健福祉士(第57800号)
公認心理師(第34156号)

業務の中で大切にしていることはありますか？

一人一人の持っている力を大切にしています。Aさんは事故で生活が大きく変わってしまい、仕事や夢までも失い、絶望の淵に立たされているように思えました。それでも、Aさんの優しさや頑張り屋な部分を尊重しながら、ほんの少しの支援で活動の幅を大きく広げていける力を信じていました。

Aさんの支援から学んだことはありますか？

ソーシャルワーク実践では本人の語りの大切さを常に感じる日々です。Aさんは辛かったこと、悔しかったこと、諦めかけたことなど様々なことを語る中で、一歩前へ進むことができたと思います。人は一人では生きてはいけません。誰かがいるから自分を振り返り、見つめ直し、生き直すことができる。改めて人の強さを実感し、微力ではあるものの関わらせてもらえたことに感謝しています。

ソーシャルワーカーという人に **出会**えてよかった



Nさん(50代/男性)
アルコール依存症

Nさんは、早朝のパート収入と生活保護費で生計を立てながらアパートで暮らしています。日中は「リ・ぼん」に通い仲間と共にアルコール問題と向き合うことで断酒生活を続けています。以前のNさんは飲酒運転で免許を失い、家族からも距離を置かれました。自分がアルコール依存症だと認めることが出来ず、断酒も失敗続きでした。

※リ・ぼん=依存症回復プログラムを実施している

アルコールにまつわるエピソードを教えてください。

元々コミュニケーションが苦手で友達も少なかったのですが、酔うと話ができることが分かり、「お酒っていいものだなあ。」と思いました。そのうち悩みが生じるたびに飲むようになり酒量も増えました。周りの人達に迷惑をかけて、心を入れ替えては、また失敗する繰り返しでした。飲酒運転で事故を起こし逮捕され会社もクビになり、その時「俺の人生はもう終わったな」と思いました。将来を悲観して辛くなり、また隠れて酒を飲みました。

医療機関、回復施設につながりどうなりましたか？

アルコール専門病院に行った後も隠れて飲んでいました。それを姪っ子に見られてしまい、泣きながら叔母に「おじさんがお酒を飲んでいる。」と言ったそうです。そこで観念して入院しました。退院後は回復施設に入りましたが3か月目に脱走し、やはりお酒を飲みました。野宿したり実家に忍び込んだりしましたが、行くところが無く施設に戻りました。そこで「自分はアルコール依存症なんだ」と認めることができました。

※回復施設=依存症リハビリテーション施設

今の暮らしはいかがですか？

気持ちが楽になって、体調はいいです。「お酒を飲まないっていいんだなあ。」と思えるようになりました。回復施設で一緒に頑張った仲間がいることも励みになっていますし、「リ・ぼん」でやっているプログラムはいいなあと思います。

病気や怪我、つまずきが原因で社会から孤立してしまうことがある。医療と社会、制度と社会の間を“つなぐ”役割をするのがソーシャルワーカー。当事者を一人にしないこと、当事者に寄り添うことに本気な人たちがいる。

AAの参加が中断しているの、今後は再開したいと思っています。

※AA=アルコホリック・アノニマスの略。アルコール依存症者の回復自助グループ。

これからの目標はありますか？

先日まで自動車教習所に通っていました。運転免許を再取得しても、今まだ生活保護を受けているので車は買えません。仕事を増やして生活保護を受けずに暮らせるようになったら車を購入したいです。姪っ子たちのためにも一日一日しっかりしていきたいと思っています。

担当をさせて頂きました



斉藤 純子
(一社)リ・ぼん勤務
社会福祉士(第179592号)
精神保健福祉士(第57548号)

業務の中で大切にしていることはありますか？

私も依存症の当事者です。私自身もそうした支援を受けてきたように、同じ依存症者として関わっていくのが基本だと思っています。関わりの中で、支援の必要性を感じた時に、情報提供や橋渡しの役割ができるといいなと思っています。Nさんが自分で考えた回復のビジョン(免許取得～増収～生活保護からの自立～車購入)を尊重しながら応援しています。

Nさんの支援から学んだことはありますか？

毎日一緒にミーティングをしていますが、過去の話だけでなく、現在の仕事の苦労話や、親族との交流で得られる気付き、また日々の喜びなど、いつも正直にお話をしてくださっています。私自身がNさんから学ぶことが多いです。一人では乗り越えられなかったことも、仲間と一緒に乗り越えられることがあります。Nさんはその姿を「リ・ぼん」の仲間達に見せてくれるので、みんなの希望となっています。

目立たない場所で、頑張る人たち

とある日曜日——。

所用で福祉関係の複合施設に出掛ける機会があった。

めったに足を運ぶことのない場所であることの好奇心と、人の多さに釣られて建物内を探訪してみることにした。聞きなれない団体名が並ぶ案内板やいつも行っている商業施設にはない気配に触れながら階を上がる。ひと際人が多いフロアにたどり着くと、各部屋の入口にこれまた目にしたことのない難しそうな言葉が並べられた研修案内が立てられている。エレベーターを降りた人たちは慣れた足取りでそれぞれの部屋へと姿を消していく。日曜日の午後にも関わらず、フロアにある研修室は全て使用中だ。

私はそこで知る——。

福祉を支えている人たちの精励を。

彼らは休日を返上しながら自己研鑽に勤しんでいるのだということ。この建物に流れるある種独特な気配は、彼らが発する自尊心や氣勢が醸し出しているものだったのだ。

世の中に福祉を専門とする資格があることは知っていた。ただ、その人たちに一度も会ったことがなかったし、正直、何をしている人たちなのかも分からなかった。

それでも今、彼らが隠し持つ情熱には触れることができた。

日曜日の午後、彼らは誰も知ることのない場所で自己が目指す追及を続けている。研修室に消えて行った人たちの背中を思い出す。

文：村山 賢

職能団体のご紹介



公益社団法人 新潟県社会福祉士会

〒950-0994
新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ 3F
TEL 025-281-5502 FAX 025-281-5504

社会福祉士は、ソーシャルワークで人々の多様な生活課題や福祉ニーズへの支援を行う専門職の国家資格です。
新潟県社会福祉士会では、社会福祉士がソーシャルワークの専門性を発揮できるよう支援するための活動を行っています。社会福祉士に学びや仲間づくりの場を提供するほか、成年後見や虐待対応に関する事業、福祉サービスの評価事業など様々な活動を通じて新潟県の福祉の増進に寄与すべく取り組んでいます。



新潟県医療ソーシャルワーカー協会

〒956-0025
新潟市秋葉区古田610番地 新津医療センター病院内
TEL 0250-24-8745 FAX 0250-25-1323

「医療と暮らしをつなぐ。そんな存在であり続けたい。」
当協会は、医療機関や介護老人保健施設などに所属するソーシャルワーカーで構成されています。病気や怪我は、時に“生きづらさ”という困難を与えます。それでも、その人らしい生活が送れるよう、私たちは仲間と共に相談援助技術の質向上に努めています。そしてこれからも、医療保健分野の専門ソーシャルワーカーとして、地域医療と福祉の発展に貢献できるよう活動していきます。



新潟県精神保健福祉士協会

〒949-6611
新潟県南魚沼市坂戸16-1 グループホームひだまり内
TEL 025-788-1043 FAX 025-788-1044

1950年代より精神科ソーシャルワーカーという名称で精神科医療機関を中心に医療チームの一員として導入された専門職であり、1997年に精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格として精神保健福祉士が誕生しました。
2011年に精神疾患が五大疾病として加えられ、国民に広く関わる疾患とされています。これまでPsychiatric Social Worker (PSW)と呼ばれていましたが、現在では、精神障害者のみならず広く国民の精神的健康に寄与するため、Mental Health Social Worker (MHSW)と名称を変え、その人らしいライフスタイルの獲得を目指しています。



毎年7月「海の日」は
ソーシャルワーカーデー



ソーシャルワーカーデーは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を推進・普及する活動です。

これからの福祉社会を担う学生を主な対象として、学生と現任ソーシャルワーカー（職能団体）とのつながりのきっかけとして開催します。

学生のみなさんがこのイベントで、これからのロールモデルとなるようなソーシャルワーカーと出会い、今後の進路の参考になることを願います。